

彼女の願いを叶えたい。

ほろにが、クリスマス。

演出・脚本 西中門

2013年 12月19(木)~23(月・祝)
阿佐ヶ谷アルシエ

TOP STAR

お星さまの恋



登場人物

ティアラ

アストラム

ユマ

ベガ

冴

M・ウォルフライエ（長老）

ティアラの父親

女主人

マクスウェル

※この物語では、作品の舞台設定上、表現上どうしても必要とする場合にのみ、差別的な言葉を使用しています。しかしそれは一重に、そのような言葉によって苦しめられた方々の痛み、苦しみ、嘆きを正確に読者に伝える目的で使用するものです。慎重に言葉は選びましたが、もしこの表現はまですぎる等のご指摘がございましたら、ご連絡、並びにご指導いただければ幸いです。宜しくお願い申し上げます。

第一夜 一目惚れ

中央奥のパネルには大きな窓が書かれている。その向こうにはアメリカのスラム街のような町並みが書かれ、小さく空も見える。その空は薄い青空のようにも見えるし、曇り空のようにも見えるし、夜空のようにも見える薄青い灰色をしている。

群唱 西の空が、夕焼けに染まる頃、

黒人の女の子が出てくる。しかしその顔は部屋が暗くて良く見えない。

黒人の女の子 お父さんただいま（と静かに告げると、窓の外を見る。）

群唱 裏通りにある古いアパートの、二階の窓辺。

群唱 その時南の空に、#パネル前でアストラムが手で表現。

彼女は唯一その窓から見える南の空に、真っ先に出た一番星を見つけると、指差して

ティアラ・・・一番星！

手を合わせて祈ります。必死に。

群唱 彼女の祈りは、その貧しい町の人々の多くが眠りにつくまで、続けられました。

群唱 一方、天上世界では！

一番星は天上から、その光景を見ていました。長い円筒型の望遠鏡で、地球を覗き込んでいる。小さい地球儀など。望遠鏡は必要。安いもので良い。#手で表していた星が自分であることをわかりやすく表現すること

アストラム 人間っていうのは、贅沢な生き物だぜ。自分の与えられた一つの人生はさ、辛いことも苦し
いことも悲しいことだって、大いなる神様からのプレゼントだっていうのに、それを、祈って解決しよ
うだなんて。もったいないったらありやしない。自分でなんとかしな。

群唱 星座の瞬く声が聞こえる。

乙女座 あら生意気ね、アストラム。

アストラム そうかなあ。

双子座 今日もピカピカだね、アストラム。髪だって突き刺さりそうに、きらきらそり立ってる。

アストラム 当たり前さ。俺はいつもアルデバラン製超強力ワックスで、髪をセットしているからな。輝きでは誰にも負けねえ。

双子座 アルデバランの赤い牛の、唾液で出来ている、ワックスだね。

アストラム うるさいうるさいうるさい。

水がめ座 いつも一番に輝くな、アストラム。

アストラム ああ。俺には相棒のこいつがいるからな。タイタンの巨人によって鍛え上げられた、鋼鉄製超重力バイク。一番星の座は、誰にも渡しはしねえ。

星座たち とてもかっこいいね（わ、ぞ）、アストラム。とてもかっこいい。

鼻をこすって照れるアストラム。

アストラムの心の声 あの日、初めて君を見たあの瞬間から、僕は君に一目惚れしたんだ。

アストラムは彼女をじっと見つめる。

アストラムの心の声 彼女の黒い肌は、肥沃な大地のよう。くるんとパーマのかかった髪は、一口大のク
ロワツサンのよう。少し垂れた両目は、二つの丁寧に磨かれた黒真珠のように優しく輝いている。笑う

とえくぼの出る真紅の唇をきゅっと結んで、一体何を願っているんだろう。

アストラム （星座たちに弁解するように） 願い、聞くだけ聞いてやるか。叶えるわけじゃないからな！

と、星はゆっくり近づいて、彼女の願いに耳をそばだてます。

ティアアラ お父さんの病気が、治りますように。

アストラムはその部屋の奥をのぞき込みました。すると隣の部屋の小さくみすばらしい、固そうなベッドに、彼女の父親がやせこけて眠っていました。（照明で表す）彼の片足は失われ、その切断された場所が膿み、熱を出しているようでした。

アストラム 片足が・・・。

父親 うう・・・っ。

ティアアラ またこんなに熱が出てる。（包帯を取りはずし）膿も沢山。お父さん、我慢してね。

彼女は、ひとしきり祈りを終え、その足の包帯をとりかえると、傷口に口をあて、ちゅうちゅうとその膿を吸い出して、吐き出すことを繰り返すのでした。

＃

父親 うぐぐ（痛みをぐっと我慢して）・・・すまない、ありがとう。（ティアラの頭を撫でながら）
ティアラ 大丈夫よお父さん。私がついてるから、絶対すぐに治るからね！

彼女は笑顔でガッツポーズを作ると、粗末なかゆを作り食べさせ、洗濯、掃除をし、また一番星に祈るのでした。

学校のチャイム音になる。＃若干クリスタルな感じで。

学生服姿のアストラムとその友人が出てくる。

ユマ はー、終わった終わったー！

アストラム なんてかわいそうな子なんだ！ああ、俺、彼女を救いたいよ。あの子は僕の運命の人なんだ。

ベガ アンドロメダ大学付属ガンマ第一高等学校、メインゲート。

ユマ 星くずの散らばる赤や青や黄のイルミネーションが、キラキラ。

帰り道。

#

ユマ やれやれ、アツシユ。お前もこりない奴だな。ついこの前N・ラッテンマイアに告白して振られたばかりだろう。

と、彼の親友のユマが答えます。その隣にいた女子学生ベガが、二つ結びにしたエメラルド・グリーンの頭髪を、笑いながら楽しげにゆらして、ユマに続けます。

ベガ それに、その子人間なんでしょう？ 星が人間に恋するなんて、とても危険なことよ。

アストラム 確かに・・・。

と、黒いペチャンコの学生カバンを肩に引っかけて

アストラム 透き通ったじやり道を、俺はじっと眺めた。

アンドロメダ学校の図書室の入り口の扉と窓ガラスから、中を覗きこむベガとユマ。

ベガ ちよっと押さないでよ！ 見つかったらやうでしょ。

ユマ だってアツシユが放課後に図書館にいるなんて、どうかしてるよ。俺心配でさ。

ベガ わかったから押さないで・・・って、シツ。

アストラムがいくつも本棚を巡って（マイム）本を見つける。赤の五ぼう星の表紙。
彼は窓際の席に座り、本を広げる。

アストラム（心の声） レースのカーテン越しに、冬の淡い木漏れ日。かすかに聞こえる部活動の喧騒。

ストーブのまきのはじける音。古い本の匂い。

ユマ あれ、何の本？

ベガ あれは・・・私たち星に関する古い伝説の本よ。

ベガ（ストップモーション中に本を取り上げて） 星にとって、人間との恋は、禁止されていました。

最も正確に言えばそれは、してはならない、という類の物ではなく、したとしても絶対に幸せになれない、という類の物でしたが。

アストラムは古い伝説の本を眺めては、難しそうに考え込んでいます。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

TOP STAR・お星さまの恋（おためしサンプル）

2013年12月25日 初版発行

著 者 田中円 © 2013年
発行者 石村寛之
発行所 有限会社レトロインク
〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7
電話 0422-49-2903
